

取組事例 16 避難所の運営への地域の女性防災リーダーの参画

1 地域の女性リーダーを中心に女性や若者らが避難所運営に協力（能登町立鵜川公民館）

- ・ 防災士の資格も持つ女性公民館長が、役場職員とともに避難所運営の役割を細分化し、炊事や健康管理などの担当やリーダーを性別ではなく、個々人のスキルや知識を踏まえた適性で決めた。週 1 回、リーダーの会合で被災者から聞き取ったニーズや困りごとを共有し、課題を解決していった。
- ・ 炊き出しの負担を考え、食事は11時と20時の2回に設定し、前日の夕食時に翌日分のパンを配布した。
- ・ 公民館長が率先して体操係を設け、毎日朝夕 2 回の健康体操と手指消毒・うがい・換気などの衛生管理を行った。毎日のタイムスケジュールを作り、さまざまな取組をルーティン化し、徹底した。その結果、避難所開設中の 2 か月間で感染症を一人も出さなかった。



2 防災士会と連携した支援(石川県防災士会)

- ・ 石川県防災士会の女性の副理事長を中心に、珠洲市の 2 か所の避難所運営支援を行った。主に県防災士会として避難所の情報収集やボランティア・防災士等の派遣調整を担当し、日本防災士会には支援者の派遣を要請した。
- ・ 県内の女性防災士が連携し、下着等の物資整理やトイレ掃除など、避難所運営の支援を行った。男性トイレの中に着替え用の紙パンツや尿漏れパッドを置くなど、性別や年代に偏らず、避難者の課題に向き合った。
- ・ 老若男女問わず、避難所運営に係る役割分担を行った。